

平成31年度第1回狭山市社会福祉審議会会議録

- 開催日時 平成31年4月18日(木)
午後1時30分から午後3時54分まで
- 開催場所 稲荷山環境センター 大会議室
- 出席者 12名
田辺会長、宮本副会長、田淵委員、小川委員、坂本委員、寶積委員、
宮島委員、三角委員、井村委員、堀委員、矢吹委員、山口委員
- 欠席者 3名
藤吉委員、細井委員、渡井委員
- 事務局 20名
齋藤福祉こども部長、
三ツ木長寿健康部長、
鷹野福祉こども部次長(福祉政策課長兼務)、
関口長寿健康部次長(長寿安心課長兼務)、
田中福祉政策課担当課長、久保田生活福祉課長、昔農こども支援課長、
奥村こども支援課担当課長、山岸保育幼稚園課長、後藤保育幼稚園課保
育所担当課長、淵泉障害者福祉課長、田中青い実学園長、志村長寿安心
課介護保険担当課長、今坂保険年金課長、關根健康づくり支援課長兼保
健センター所長、小林長寿安心課介護事業担当主幹、佐藤保健センター
成人保健担当主幹、遠山福祉政策課総務・政策担当主幹、堀越福祉政策
課総務・政策担当主査、小田切福祉政策課総務・政策担当主査
- 傍聴者 0名

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 職員紹介 福祉こども部長、長寿健康部長から職員の紹介。(会議資料1)
- 4 報告事項
(1) 平成31年度当初予算と主な重点施策について (会議資料2)
福祉こども部次長と長寿健康部次長より説明

〈質疑応答〉

- 委員 旧入間中学校跡地の利用について、民間企業の活用を考えているか。
- 担当課長 民間企業の活用を念頭に入れた検討をしていくが、まだ具体的なことは決まっていない。
- 委員 民間保育所等施設整備補助事業について、整備の見通しがあって4億の予算となっているのか。

担当課長 事業者の申し出等を踏まえて予算化してあるが、少なくとも認可保育所と小規模保育事業を1ヶ所ずつ整備する予定である。

会 長 健康づくり推進事業について、昨年度から市内の公園に運動器具を設置しているが、効果はどうか。また、運動器具の設置は整ってきたが、ソフト面は進んでいるか。例えば地域でトレーナーを養成し、その方にボランティアで説明してもらおう。ソフトとハードが両方進んでいくと、効果的ではないか。

担当課長 昨年度器具を設置した事業者からトレーナーを呼んで、使用方法の講習会を実施している。今年度も実施を検討しているが、詳細は未定である。おりぴい健康マイレージに参加した方に受講してもらったが、今後、すこやか体操普及指導委員にも受講してもらい、各地域でも内容を広めていきたいと考えている。

(2) 民生委員等一斉改選の進捗状況について (会議資料3)

福祉政策課長より説明

〈質疑応答〉

委 員 民生委員候補者を市からリストアップすることはできないか。

担当課長 市から候補者をリストアップすることは難しい。

会 長 民生委員の業務の負担量の変化はどうなっているのか。

担当部長 民生委員の業務の負担量は地域、個人によって違う。これを市で統一すると活動がうまくいかなくなることも考えられるので、各地域に任せているのが現状である。しかし、負担量が多くなっていることは事実であるので、今後市でも負担量の軽減について検討していく。

委 員 民生委員の年齢条件はあるか。

担当課長 30歳以上78歳未満である。

副 会 長 福祉施設に来ているボランティアに声掛けをして候補者を探している市もある。狭山市も自治会長にお願いするだけでなく、声かけをする対象を広げてはどうか。

担当課長 検討する。

(3) 居宅訪問型児童発達支援事業について (会議資料4)

青い実学園長より説明

〈質疑応答〉

委 員 現在申込みをしている方の人数は。

担当課長 現在はいない。

委 員 青い実学園に通っていると、様々な情報が得られたり、他の園児や家

族との交流が図れることから、出来る限り通園した方がいいのではないか。その方向性は相談支援の担当者と決めていくのか。

担当課長 この事業は自宅から出ることができない児童を対象としている。事業利用後、学園に通えるようになれば通所に切り替えることが可能。また、学園で行っている保護者対象の話し合いや保護者会の際に行っている青い実教室への参加を事業利用の保護者の方に声を掛けていきたい。

会長 利用者の見込み数は。

担当課長 把握はしていない。例えば、脳性麻痺で入院中の児童が退院後すぐに学園に通えない場合、事業の利用により支援を受けることができるようになるので、今回事業を開始することになった。

(4) 子ども・子育て支援事業計画について (会議資料5)

こども支援課長より説明

〈質疑応答〉

特になし

(5) ファミリーサポートセンター事業の利用料の助成について (会議資料6)

こども支援課長より説明

〈質疑応答〉

委員 今回の助成はどのくらいの時間数を見込んで予算化しているのか。また、この助成により利用者の増加が見込まれるが、手助けをする側の対応はどのように考えているか。

担当課長 1ヶ月あたり1万円を上限として、8～9名の利用を見込んでいる。ファミリーサポートセンター事業は手助けする方がいて成り立っている事業であり、手助けをする方を増やしていかなければいけないことは承知している。手助けしたい方が会員になるための研修を軽減するなどして、市としても会員を増やしていきたいと考えている。

委員 手助けをする方の質の確保はどのようにしているのか。

担当課長 事業の委託先の社会福祉協議会で研修を行っている。内容は子どもを預かる際の医療的な注意事項など様々な研修がある。

委員 対象者③の2名以上の児童が利用している世帯とはどういう意味か。

担当課長 2人兄弟で同時に利用する場合はそれぞれ700円負担していたが、同じ月に2人兄弟で利用した場合には所得の制限にかかわらず1人分の利用料を助成することになる。

委員 兄弟の場合は、同じ日の利用になるのか。

担当課長 1ヶ月何回利用したかで計算することになる。1ヶ月の中で兄弟が利

用していれば助成の対象になる。同じ日の利用というところまでは限定していない。

(6) ひとり親家庭等医療費の窓口払いの廃止について (会議資料7)

こども支援課長より説明

〈質疑応答〉

委員 市民への指定医療機関の周知はどのように行っているか。今後、市外の医療機関でも対応できるようになるのか。

担当課長 市民への周知については、こども医療費の医療機関と同じであることを説明し、医療機関の窓口にステッカーを貼ることも今後検討していく。

市外の医療機関についてはまだ検討していない。近隣市もまだ検討を始めていない状況である。

副会長 こども医療費、心身障害者医療費、ひとり親家庭等医療費の助成の優先順位はどうなっているのか。

担当課長 現段階で考えているのは、ひとり親家庭等医療費の優先度が一番高く、その次にこども医療費である。ひとり親家庭等医療費は所得制限があり、ひとり親家庭等医療費が1番とならない世帯もある。その場合はこども医療費の受給者証を交付することになる。受給者証を2枚持つことがないように管理していく。

副会長 制度の開始にあたり、市は制度の利用方法をしっかりと説明し、市民に理解してもらえるよう事業を展開してもらいたい。

担当課長 検討する。

(7) 旧入間中学校跡地の利活用について (会議資料8)

こども支援課入曽地区子育て支援拠点等整備プロジェクトチーム担当課長より説明

〈質疑応答〉

会長 この情報は既に公表されているのか。

担当課長 公表されている。

委員 子育ての拠点として、建設中の入曽地区地域交流施設(仮称)との連携や市の考えはあるか。

担当課長 現在、子育て拠点として、水野保育所と水野児童館の移転が決まっているが、その他については検討している段階である。建設中の入曽地区地域交流施設(仮称)とは連携できるようにしていきたいと考えている。

委員 評議委員会の設置を考えているか。また、民間企業の活用を考えているか。

担当課長 評議委員会の設置は今のところ考えていない。子育て拠点として民間企業を活用できるか検討していく。

委員 水野保育所と水野児童館跡地の利用方法は考えているか。

担当課長 水野保育所については敷地が狭く高圧線が通っていることから、新たに保育所や公共施設は考えていない。水野児童館については建物が利用できる状態にあるので、建物は残すことは決まっているが利用方法は今後検討していくことになる。

(8) 平成31年度待機児童の状況と対策について (会議資料9)

保育幼稚園課長より説明

〈質疑応答〉

副会長 地域型保育事業を展開するうえで連携施設の確保が難しいという説明があったが、200名分の保育施設確保をすることにより、連携施設の確保の困難さが解消できる見通しがあるか。

担当課長 0歳児～2歳児の待機児童解消のため受け入れる施設の確保はしていくが、その後の連携施設がなければ3歳児以上の受け入れができないため、0歳児～5歳児の保育所整備も行っていくことになる。

地域型保育事業所の狭山ひかり保育室と武蔵野短期大学附属保育園は幼稚園に併設されており、3歳児以上はその幼稚園が受け皿となっている。このように幼稚園を連携施設としていく考え方もある。保育施設を整備する際に4つの圏域を設けているが、この4つの圏域のバランスも考えながら連携施設を確保していきたい。

委員 施設整備も大切であるが、保育士の処遇を改善してもらいたい。

担当課長 国では保育補助者の雇用、宿舍の借り上げなどの補助制度がある。また、まだ国から示されていないが、給付費公定価格の見直しがあるので、見直しが行われれば保育所への給付費が増えるので、保育所を経営する方には保育士の処遇改善につなげていただきたい。また、その他の補助金制度についても国の動向を見ながら対応していきたい。

委員 保育所と保育園の名称の違いは何か。

担当課長 狭山市においては公立の保育施設を保育所、民間の施設を保育園と使い分けている。

(9) 幼児教育・保育の無償化について (会議資料10)

保育幼稚園課長より説明

〈質疑応答〉

委員 無償化に伴い給食費は保育施設で徴収するのか。
担当課長 給食費は自己負担になるため、保育施設で徴収していただく。
委員 その場合、一定の金額が示されるのか。
担当課長 各保育施設で状況が異なる。公立保育所では金額を示すことはできるが、民間保育園でその金額にするかどうかは各民間保育園で判断していただく。
委員 他市では副食費の補助があると聞いたが、狭山市ではどうか。
担当課長 現時点においては、補助の予定はない。

(10) 日常生活圏域の見直しに伴う地域包括支援センターの増設について

(会議資料 11)

長寿安心課介護保険担当課長より説明

〈質疑応答〉

会長 最近の各地域包括支援センターの能力のばらつきはどうか。改善が必要か。
担当課長 若干の改善の余地はあるが、大きなばらつきはない。
委員 障害を伴う高齢者の困りごとが多々ある。介護保険サービスと障害福祉サービスを併用している方もいることから、地域包括支援センター職員には障害福祉サービスの知識も持っていただき、地域包括支援センター業務を運営してもらいたい。
担当課長 国の方針もあり、将来的に地域包括支援センターは様々な人を対象にしたセンターになっていくものと考えている。
会長 応募の見込みはあるのか。
担当課長 入曽・水野地域包括支援センターはほぼ見通しがついている。柏原・水富地域包括支援センターは今のところ厳しい状況である。

(11) 狭山市自殺対策計画について (会議資料 12)

保健センター所長より説明

〈質疑応答〉

委員 自殺の原因を考える際に本人だけではない部分も見ていくと具体的な対策が立てやすくなるのではないかと。自殺の原因となる動機はたくさんあり、児童虐待もその一つであると思う。相談窓口を設置することは重要であるが、そこに相談に行けない方もいる。そういった場合の計画も盛り込まれていると更にいい計画になるのではないかと。
担当課長 自殺に至る原因と動機について、自殺した方の家族から聞き取りした結果、1人当たり平均4つの原因があった。1つの問題がきっかけとな

り複合化し、健康な状態ではなくなり自殺する。また、出産後のうつ病も多く、妊産婦の対応として計画に盛り込んでいる。相談対応については、講習・研修会を実施して、職員のみでなく市民などの幅広い方に参加してもらい内容を理解してもらうよう努めていく。

副会長　　今まで自殺は個人の精神的な問題として捉えられてきたが、この計画では個人の生活課題全般を眺めて丸ごと捉えていくという視点から生きるということを包括的に支援していくこと、その推進にあたっては市が地域の実情を捉えながら行っていくことを踏まえて行っていくことが盛り込まれている。これはとても意義があることである。

一方で、自殺に関連する項目は多くあるが、これまでの従来施策がどう網羅されているのかわからない。特に高齢者については、自分が誰かに必要とされたいと思い、自分の居場所を探している方が多くいる中で、なぜこういった観点でのサポートや取り組みが盛り込まれなかったのか。策定会議ではそういった議論はなかったのか。

担当課長　　会議の中で意見はいただいたが、今回の施策の4章にあるように、高齢者に生きがいを持ってもらうことで地域のつながりが生まれ、自殺の予防につながると考えている。今後も高齢者福祉の所管と調整をしながら検討していきたい。

担当部長　　副会長が仰る通り、この計画の施策の多くは、自殺対策を目的としているものではない。元来、他の目的があって取り組まれていて、その延長線上には自殺対策に資する面がある。今後各施策の担当者にも、自身の仕事が自殺対策に繋がっているという意識を持ってもらいたい。

この計画を策定した意義は、色々な分野の方々に一緒に取り組んでもらい、自殺対策の意識を持ってもらうことである。

会　　長　　地域で活動している方々は、自身の活動に自殺対策の視点はない。この計画の概要版を作成し地域の方々に配付すると、自身が行っている活動の中に自殺対策の視点が入ってくると思う。

(12) 成人男性の風しん抗体検査・予防接種について　（会議資料 13）

保健センター所長より説明

〈質疑応答〉特になし

(13) その他　特になし

5 閉会

〈終了〉

